

# Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

## TICO 季刊ニュースレター

No.36 2014年4月号

### 新規プロジェクトについて

2014年4月から開始予定の新規母子保健プロジェクトについて、報告いたします。

👉p.2

### ザンビア奨学金（学費）支援 ザンビア募金

皆様からご支援いただいた寄付金の使途について、報告いたします。

👉p.3-4

### アイビー看護師のその後

昨年秋に日本で母子保健研修を受けた後、モンボシ診療所に復帰したアイビー看護師のその後を追いました。

👉p.5

### 支援のカタチ

NPO法人賀川豊彦記念館・鳴門友愛会事務局長三久忠志さん、TICOユースからご投稿いただきました。

👉p.6



ザンビアのモンボシ村に大きな虹がかかりました。よく見ると右上にはもうひとつの虹が。（モンボシストリーム#13 TICO公式facebookより）

## 新しいプロジェクトがまもなくスタート！！

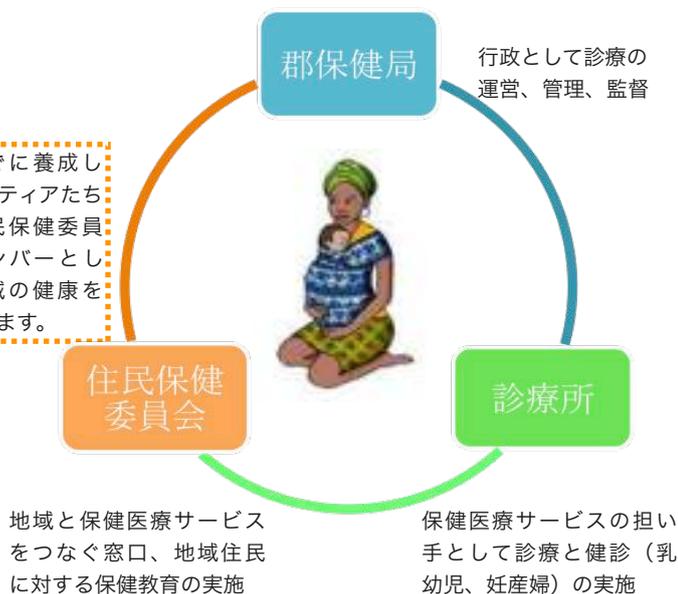
# チサンバ郡 総合的な農村母子保健を支える”地域力”強化事業

瀬戸口千佳（業務調整員）

チサンバ（旧チボンボ）郡モンボン地区で活動を始めて早6年。TICOは地域住民とともに、お母さんと子どもの健康を守る活動を続けてきました。最寄りの診療所まで片道30キロ歩かなければならなかった頃を知る住民は、「TICOが近くに診療所を建ててくれたおかげでずいぶん楽になった」、「乳幼児健診が毎月、近所で開催されるようになってうれしい」と話します。「施設でお産をするのは初めてで不安だったけど、診療所までボランティアの人が一緒について来てくれて心強かった」と話してくれるお母さんもいます。

2014年から次の3年間では、これまでのTICOと地域住民の取り組みが、ザンビア既存の保健システムの中うまく定着し、各関係者の通常業務として当たり前に行われる状態を目指します。地方行政を巻き込みながら、地域保健に関わる諸機関の連携を強め、それぞれの業務遂行能力を高めていくことが主な活動です。そして、モンボンでの経験を他の地域でも生かすべく、事業対象地をもう一つ増やす予定です。

これまでに養成したボランティアたちは、住民保健委員会のメンバーとして、地域の健康を支えています。



## 新規プロジェクトに向けて

2000年に国際社会は、2015年までに達成すべき8つのミレニアム開発目標を掲げました。そのうち4番目と5番目は、乳幼児死亡率の削減と妊産婦の健康の改善です。

ザンビアは乳幼児死亡率、妊産婦死亡比が未だ高い国です。そしてその原因には、医療、環境、栄養、教育、経済、農業、社会制度など多くの要素が絡まり合っています。一方、日本は世界の中で最も子どもや妊婦さんが死なない国の一つです。そのような日本が、そうでない国に対して、子どもや妊婦さんの健康を守るために支援することはとても自然なことだと思っています。なぜなら、多くの子どもや妊婦さんが命を落とすような社会は、どのような民族・文化・時代であっても悲しい社会に違いないと信じるからです。

そしてこの問題に対しTICOは、これまでの経験を生かし「保健」という切り口で迫ります。保健という視点から見ると、死亡率/比を減少させるには、有効な健診によって原因となる病気を予防する、または早期に発見して介入するのが有効です。そのような妊婦健診、乳幼児健診が地域で効果的に実施されることが新しいプロジェクトの大きな目標の一つです。

TICOが支援しているモンボン地域は、約20km四方に推定2万人が生活している農村です。この広大な診療圏を、たった3人の医療従事者とあとは住民ボランティアたちで守っています。そのボランティアたちの実施する健診が、地域にとってきちんと意味

杉本尊史（保健医療専門家）



ボランティアたちに説明する杉本医師。

のあるものにしていくこと、受け皿となる診療所の業務の質を高めること、それを監督する役所である郡保健局にバックアップしてもらうことが、目標達成に必要な要素だと考えています。

私は、診療所のスタッフや各集落の住民ボランティアの日常業務を横からつぶさに観察して母子保健の観点から分析し、時には対話の中で、時には研修という形でフィードバックしていきます。その小さな流れを束ねて、やがて地域の総合的な母子保健の大きな流れにしていきたいと思っています。

※本事業はJICA草の根技術協力事業として実施されます。

# TICO奨学金支援スタート！

瀬戸口千佳（業務調整員）

## ★ 奨学金の対象となった学生たち

8年生

（日本の中学2年生に相当。）



9年生

（日本の中学3年生に相当。）



活動地であるモンボシ地区には、公立校とコミュニティスクール合わせて15校ほどが存在しますが、その中心的な学校がモンボシ小中学校です。小学校（1年生～7年生）は授業料が無料ですが、8年生からは有料になるために、卒業試験※に合格しても進学をあきらめざるを得ない生徒がいます。（※ザンビアでは7年生、9年生、12年生で卒業試験が実施される。）

一方で、学校側にとっても、授業料は大切な収入源の一つであり、支払いが滞ると学校の運営に支障をきたすという課題があります。政府からのサポートが十分ではないためです。

そこで学資支援の第1弾として、学校側の資料や保護者との面談を通じこれら10名の奨学生を選出し、昨年度に徳島県吉野川市立

森山小学校から頂戴した寄付により、モンボシ中学校の年間の授業料（一人当たり5,000円）のうち3,000円を奨学金として学費支援に充てさせていただきました。いずれの生徒も、学業成績が良好にもかかわらず、両親・片親を失くしていたり、家庭環境、経済事情に困難を抱えています。

来年度は、事務局からの報告にもありますとおり、昨年に引き続きご支援頂いている森山小学校、さらにTICOユース、そして個人の方々から頂戴しましたご寄付により、奨学生の数を増やす予定です。

まだ試行錯誤の部分もありますが、少しでもより多くの子どもたちが、教育の機会を得られるよう取り組んでいきたいと思っております。

## ～奨学金支援についてのご報告（事務局）～

徳島県吉野川市立森山小学校では、昨年度に引き続き、2014年2月27日にアルミ缶回収の収益金の贈呈式が行われ、生徒のみならず、保護者の方々、地域の皆様、そして教職員の方々が一生懸命に活動して集められた寄付金を頂戴してきました。そして、ザンビアのモンボシ中学校に通う生徒たちの奨学金として大事に使わせていただくことをお約束してきました。

また、2014年2月8日には2013年度に行われたTICOユースの自主活動、大学祭やチャリティコンサートでの収益金を贈呈していただきました（6ページ参照）。こちらも、ザンビアへの学資支援として、大切に使用させていただきます。

この場をお借りしまして、ご協力を頂きました皆様へ御礼申し上げます。支援の状況等については、これからも会報、HP等を通じてご報告させていただきます。



吉野川市立森山小学校

収益金贈呈のようす

# ザンビア募金☆進捗報告

いただいた寄付金総額：895,607円（当初予算：532,520円）

支援した教科書と生徒たち。（カロンガ・コミュニティスクールにて）

## カロンガ・コミュニティスクール教材支援 （ンジョブ村）：16,486円《完了!!》

2012年に開校したばかりのカロンガ・コミュニティスクールは地域の有志によって運営されています。

ザンビア募金では、まずは不足している2年生向けの教科書と学校運営に最低限必要な物品を支援しました。（上図参照。）



授業の様子

## 家畜薬浴槽ディップタンク建造（ンブドゥウ村） ：312,019円《支出完了》



屋根の骨組みを作ります。



トタン屋根を載せます。

その後、雨季（農繁期）に突入してしまったため、作業が一時中断しています。

## マケニ・コミュニティスクール改良換気型トイレ設置（マケニ村）：69,855円



掘り下げた穴の中に、レンガを積み上げて行きます。



トイレは全部で3つ作ります。



モンボシ診療所の環境衛生士が、作業の進捗状況を確認しています。



雨季に突入したため  
作業中断中

残金については、すでに支援が決まっている橋の建設（NPO法人道普請人との連携）にかかる費用と、新しく挙がってきている要望を厳正に審査した上で使わせて頂く予定です。

会報にて引き続き報告していきますので、応援をよろしくお願いいたします。

# アイビー看護師、日本研修を終えて

田村幸根（保健医療専門家）

アイビー看護師は2013年9月23日から10月12日の20日間に渡る徳島及び香川での研修を終え、ザンビアのモンボシ診療所に復帰しています。日本で学んだ技を「これは日本で学んできたこと」と語ってくれる姿が頼もしくも思えます。研修で学んだことを踏まえたモンボシ診療所での実践について、アイビー看護師から報告書を受け取りましたので、日本語に翻訳したものをここに紹介させていただきます。



モンボシ診療所で働くアイビー看護師。

はじめに、研修中にお世話になったみなさまには改めて心からお礼申し上げます。

日本での母子保健研修最後に作成した「活動計画」を基に、現在妊婦健診の質の向上に取り組んでいます。ザンビアで推奨されている最低4回の妊婦健診のうち、初回健診については特に力を入れて取り組んでいます。

例えば、妊婦へ栄養指導をする際に日本で学んだ塩分摂取量の指導を生かしています。ザンビア人の塩分摂取量は非常に多いのが特徴です。妊婦健診で高血圧と診断された妊婦は

妊娠高血圧症候群のリスクが非常に高いため、塩分摂取量について必ず伝えるようにしています。これまでは、「控えるように」と伝えていましたが、今はティースプーンに1日の摂取量を示し具体的に伝えるような工夫もしています。

また、妊婦健診でお腹の中の赤ちゃんが逆子であることが分かった場合には、日本の助産院で学んだ逆子直し体操を紹介しています。これまで3例の逆子の赤ちゃんに遭遇し体操を試したところ、2例の妊婦が正常位である頭位での出産をすることができました。体操を始める妊娠週数によるところも大きいのですが、逆子直し体操の効果があったと思います。

地域の発展のためにTICOが「お産を待つ家」の建設を支援してくれたことで、妊婦が分娩予定日前からお産を待つ家で待機し、分娩の日をそこで迎えることが出来るような体制が整ってきています。妊娠、出産には常に母子共にリスクが伴うことを住民に伝え続け、これからもお母さんがより安全な出産が出来るよう助産師としてサポートしていきたいと思っています。

アイビー・チヨタ・ムクンバ



## 猫目線



こちらザンビアは雨季終盤ですが、日本は春の訪れを感じる時期でしょうか。ご主人いわく春といえば「入学式」とのこと、今回の猫目線はザンビア農村部の教育事情から。

勉強がよく出来るサム君。第一夫人の第一子（7人兄弟）ながら、父親が第三夫人と逃げたため、学費は祖父がやっとのことでまかっています。今年サム君は10年生（高校1年生）になりましたが、通学できる近所の高校ではなく寄宿制の高校へ入学しました。経済的に余裕がない中で、なぜ費用のかかる寄宿制を選んだのか。聞いたご主人にサム君は「家にいると、牛や他の家族の面倒を見なければいけない。それでは勉強に時間を割け

ない」と答えたそうです。でもその学費や制服代などを捻出するためにサム君自身も奔走しており、2月に入っても学校には通えていませんでした（ザンビアの学校は1月始まり）。

高校まで行ける彼は恵まれている、という考えもあるでしょうが、まだ16歳の男の子が立ち向かわなくてはならない世界としては、やはり厳しいと思ったご主人なのでした。ニャー

# 支援のカタチ

## ～NPO法人賀川豊彦記念館・鳴門友愛会事務局長 三久忠志さんの場合～

今から50年ほど前の1955年、東南アジアキリスト教協議会がフィリピンで開かれました。米ソ2大対立の激しい時代の中、アジアやアフリカでは人が生きるために必要な食糧が不足し、そして満足に教育も受けることができない深刻な状況にありました。当時日本は経済成長の真っ直中であり、貧困や教育を受けられない国の問題に対して関心を持つことが少なかった私たちは、大変大きなショックを受けました。しかもその日本の繁栄はアジアの貧困の上に成り立っていることを知らされたからです。

現在、私は賀川豊彦記念館鳴門友愛会の事務長をしています。賀川豊彦という人は大正の初め、神戸の貧民街に住む人たちのために献身的な働きをし、それが「死線を越えて」という小説としてベストセラーになり、世界的に知られるようになりました。ノーベル賞の候補にも3度推薦されています。

私は教員を退職後、徳島で活動をしているTICOの存在を知り、以後機会あるごとに、鳴門友愛会でチャリティウォーキングを開催し、ザンビアの支援を続けて

います。賀川豊彦が生涯をかけて尽くした貧しい人々への友愛互助の精神はちょうどこの精神につながっているからです。



チャリティウォークイベントのようす

## ～TICOユースの場合～



TICOユース合宿のようす

TICOユースはTICOの学生部会として、日々の勉強会、世界を考えるプレゼン大会などを企画し、自分たちが世界に何ができるのかを考え、学び、発信しています。

2014年1月には学費支援コンサートを開催し、その他の自主活動で得られた収益金と合わせて**105,389円**をザンビアのモンボシ中学校に通う子どもたちへの学費支援として、TICOへ寄付させていただきました。

学費支援イベントは来年度も開催を予定していますので、ぜひご来場ください。

これからも、徳島のみなさんが世界を考えるきっかけを作るべく、若者らしく、元気に活動していきたいと思えます。どうぞ応援よろしくお願いします。

同時に、一緒に活動してくれるメンバーも絶賛募集中です！[tico.youth@gmail.com](mailto:tico.youth@gmail.com)までお気軽にお問い合わせください。

## 平均寿命世界一の長寿国から

TICO 代表 吉田 修

ご存知の通り、日本は男女平均の平均寿命が83歳と最も長く、世界一の長寿国です。日頃の診療でも90歳代、さらに100歳を超える患者さんも珍しくなくなりました。

右上のグラフは、日本人の平均寿命の推移です。なんとこの70年間で寿命が約2倍になりました。医療の向上はもちろん、衛生、教育、栄養、社会制度、経済成長、平和の維持などなど国の総合力によって、人類史上かつてない長寿を我々が初めて享受しているのです。

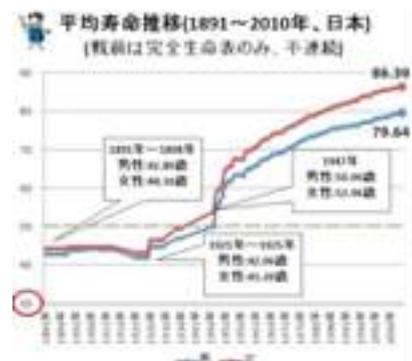
しかし、人類全体が同時に長寿になっているわけではありません。右下のグラフは、アフリカ諸国の平均寿命の推移です。1990年頃から急激に短命になっています。原因は様々ですが、主にエイズによるものだとされています。この状況に対して、世界中が協力してエイズや結核などの感染症に立ち向かい、2001年からは国連が主導する

ミレニアム開発目標を掲げ、多大なる努力がなされました。ちょうどTICOの活動が始まった時期でもあります。ザンビアでも、一時30歳代まで下がっていた平均寿命が今世紀になって上昇に転じ2011年には55歳ほどになっています。まだまだ僻地の農村では劣悪な状況が続いていますが、ザンビア人の努力と国際協力が功を奏した結果であると言えます。初めてアフリカに行った1990年、あまりの状況の厳しさに、私が、又はTICOが何かしてもアフリカは良くならない、と無力感に苛まれたこともありました。しかし、少し時間をおいて全体をみると国際機関から小さなNGO、あるいは個人の活動の総和、そしてアフリカの人々の努力によって状況は少しずつ改善されているのです。

それでも、まだまだ課題は山積みです。これからもやるべきことは沢山あります。

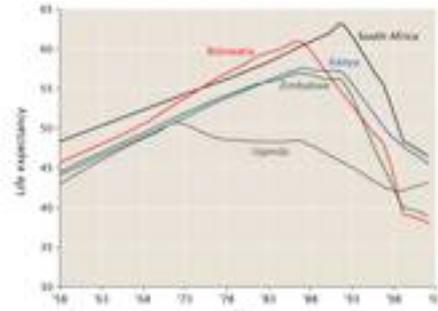
よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。



平均寿命推移(1891-2012年、日本)  
(戦前は完全生命表のみ、不連続)

<http://www.garbagenews.net/archives/1940398.html> から引用。



アフリカの深刻な国における平均寿命の変遷  
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Life\\_expectancy\\_in\\_some\\_Southern\\_Africa\\_n\\_countries\\_1958\\_to\\_2003.png](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Life_expectancy_in_some_Southern_Africa_n_countries_1958_to_2003.png) から引用。

# TICOを通じたモンボシとのかかわりーこれまでとこれから

近森憲助さん（鳴門教育大学大学院学校教育研究科国際教育コース・教授）

可能な開発のための教育（ESD）の考え方に基づいて、「モンボシの地域づくりに貢献できるような子どもたちを育てる環境教育プログラム作り」を目標にしています。なぜなら、ESDのねらいは「地域とともに生きる教育を通して地域づくりに貢献できる立派な大人を育てる」ことなのです。

昨年11月、水をテーマにした授業案をモンボシの公立校とコミュニティスクール2校の先生方にワークショップで作っていただきました。その際、授業案を提案しましたが、その案は、鳴門の大学院の環境教育の授業で学生たちが何回かの試行を通してつくりあげたものです。今年は、モンボシの生活文化の要素も取り入れた水や木、土などをテーマにしたモンボシでなければできないような授業案を作成

したいと考えています。また、地域づくりのために必須の基本的な算数/数学の知識の強化にも取り組んでいきたいと思っています。

そして、この研究の成果を算数/数学の授業案をも含めた環境教育授業案集として、モンボシに普及されるよう取り組んでいきたいと思っています。



水の存在を知らせるといわれているムクウの木（別名：フィグツリー）

2008年にTICO代表の吉田先生と一緒にザンビアのモンボシの学校をいくつか見学して以来、毎年1度はモンボシを訪れ、授業をしたり、ワークショップをしたりしてきました。そして今年度からは、モンボシのようなアフリカの農村部で、どんな環境教育ができるのかということ課題にした調査研究をTICOとの連携により行っています。この研究では、持続



ワークショップのようす

## 離任のご挨拶

田村幸根  
（保健医療専門家）

今日もモンボシ診療所のスタッフと共に、ある地域の出張幼児健診へ行ってきました。健診場所には既にお母さんが子どもたちを連れて家々から集まってきており、地域ボランティアたちが子どもの体重測定を始めていました。地域の保健活動は、彼らボランティアの協力抜きには成り立ちません。

私がザンビアに赴任する前、日本で保健師として勤務していた際も、地域の母子保健ボランティアさんと共に事業に取り

組んでいました。環境の異なる中でも彼らに共通するのは、自分の愛する地域や家族のために活動をしようと行動に移しているところ。そこに住む人々は本当に地域のことをよく見ていますし、よく知っています。そういった情報や知恵を拾い上げ見える形にし、地域の課題解決に向けて行動変化を促していけるようこれまで活動を続けてきました。

出張健診の最後に、村の住民が作ってくれた「チブワントウ」と呼ばれる伝統的な飲み物をいただくことがあります。トウモロコシを主原料に、「ムコヨ」と呼ばれる植物の「根っこ」が“甘みのスパイス”として使われています。彼らは「チブワントウ」を飲むときとても嬉しそう

顔をします。TICOの活動が彼らの「根っこ」作りの“スパイス”となり、当たり前自分たちの健康と向き合えるような家族の形がこの地域に深く根を下ろしていつてくれることをこれからも願っています。

みなさまには多大なるご支援をいただき、この場をお借りして感謝いたします。



モンボシ診療所ナースたち、郡保健局母子保健担当官と田村

## 着任のご挨拶

竹村俊男  
（村落開発専門家）

皆様、はじめまして。このたび村落開発専門家として2月下旬からザンビアへ赴任することになりました、竹村俊男と申します。開発コンサルタント企業の人事部、青年海外協力隊員としてケニアの県保健事務所での勤務の後、英国の大学院に進学して国際保健における保健人材について学んで参りました。この経験を活

かし、これからTICOの新しいプロジェクトに従事させていただきますが、これは過去の小児保健、妊産婦保健プロジェクトで育んだ人材や経験を活かした総合的なものであり、その一員として携われることを大変光栄に感じております。

私には二年間ほどのアフリカ経験がありますが、ザンビアとケニアとでは共通点もあれば、当然ながら相違点も多く、時には戸惑うこともあるでしょう。しかしながら、新たな人々との出会いや経験が非常に楽しみであり、皆様とその興奮や

感動を共有することが出来たらと考えています。皆様からの支援がザンビアの地域の人々に届くように、一生懸命取り組む所存です。これから何卒よろしく願いいたします。



ケニアの村で過ごす憩いの時

## 事務局長 福士庸二のつぶやき

### 当事者になること

TICOがfacebookを始めたのをご存知ですか？TICOの保健医療専門家として今年の1月末から3月始めにかけてザンビアに滞在していた杉本医師が「モンボシストリーム」という記事を数回にわたり投稿しています。今回は2ヶ月弱のザンビア滞在でしたが、そのほとんどの時間をTICOの活動地であるモンボシ村で過ごし、モンボシ診療所での医療支援活動をする傍ら、自主活動としてなんと！お隣のモンボシ小中学校に空手部を作り、生徒たちに指導を行っていました。短い期間ではありましたが、こうして村人の中に入り込むことで、杉本医師は「当事者」になろうと、一歩でも近づこうとしています。

ビートたけしさんは3.11の直後、こんなことを言っています\*。  
『海の向こうで内戦やテロが起こってどんなに人が死んだって、国内で毎年3万人の自殺者が出ていたって、ほとんどの人は深く考えもしないし、悲しまなかった。「当事者」になって死と恐怖を実感して初めて、心からその重さを感じるんだよ。』

杉本医師の試みに、ザンビアの農村が抱える課題の掘り起こしとその解決に期待が膨らみます。

TICO公式facebookはこちらまで。

ticohq

検索



\*引用：NEWS ポストセブン 3月11日(火)7時6分配信

(<http://zasshi.news.yahoo.co.jp/article?a=20140311-00000000-pseven-ent>)

## ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

### 寄付をいただいた方 (書き損じハガキ含む)

花井郁恵、唐住洲子、渡部知美、賀川豊彦記念館、田淵幸一郎、みんなのチャリティー代表四宮久子、原田栄枝、TICOサポートクラブ、工藤正隆、秋月良子、児島将康、村上亜由子、高松聖ヤコブ教会婦人会、石橋万理、田淵規子、秋月直也、加本花子、下楠章、TICOユース、原田清、土江理・文枝、紙幸子、山下卯彌香、森山小学校、佐藤正明・潤子、橋本浩一、副島光江、武市典子、峰尾武、さくら診療所、吉田修、匿名2名

博之、岩田祥三、森山庄八、金納千晴、坂東正章、山元博子、秋月益子、中村晃一、徳島県医師会、山崎順子、中村佳夏、松島拓、佐藤三千子、和田快、工藤瑠沙香、岡真澄、近森由記子、匿名1名

### 新たに入会された方

井貝充利、金子洋平、上谷遼、曾根久勝、下村俊太郎、友金輝幸、櫻井芳騎、高磯甫隆、出浦綾夏、竹村俊男

●2013年12月1日～2014年3月24日分

●順不同、敬称略

### 会員を更新された方

ホウエツ病院、石橋万理、塩田勉、田淵幸男・規子、高島百合、近森憲助、黒岩宙司、北島コーポレーション、新居智次・和世、合同会社PlanB、神谷保彦、白石吉彦、株式会社柚子りっ子、塩井英子、能田千春、ヒラオカ薬局、三木野

### TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ) テイコ

募金箱 — さくら診療所 (徳島県吉野川市) に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じはがきを集めています。

## TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

### 年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

### TICOニュースレター Face to Face 第36号

2014年4月発行 発行人：吉田 修

編集：近森 由記子

### 特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271 (平日 9:30～18:30)

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：[www.tico.or.jp](http://www.tico.or.jp)

facebook：[www.facebook.com/ticohq](http://www.facebook.com/ticohq)